

<今回>219回目 2017年9月25(月)15時~18時 603号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」(343P神津恭介氏への挑戦状) 九 p360より

<前回>218回目(17-9-1) 出席者7名

資料 17-00-01-1)前回のまとめ(清水)

-2)府中日帰り旅行プラン(高山)

A 報告

高山氏が参加できないかもしれないと府中旅行をどうしようかと相談があったがそれを知らず9月21日と指定して計画を組んでいただいた。歩かない計画である。あまり大きな集団にしたいくないとしていたが、知っている方に10枚ほどコピーして見せたら半数の方が参加したいとのことで10名くらいだと予想。西府駅周辺は食事に適した場所はなく、各自すませて、熊野神社くらいでパンをかじる程度も予想。

懇親会7名

津多屋 12911円(2・1500+5・1700)-1411

B 府中日帰り旅行計画書 集合は府中本町も考えたが(昼食の関係)、連絡のつかない人もいるので計画書通りとする。解散時に府中本町周辺のコーヒーショップで懇談する。内容もよくわかり、資料としては最高。

C 読書 (p343 神津恭介氏への挑戦状) 九 より

1)高木彬光氏の「邪馬台国の秘密」の盗作について ①水行10日、陸行1月は帯方郡治から女王国までの日数

②帯方郡西海岸は水行、韓国内部は陸行 ③1万2千里と水行10日陸行1月は同一行路 ④不彌国は女王国と逢い接しているとまとめているが、以上4点は全く古田独自説のもの

2)盗作の証拠 ①邪馬壹国と邪馬臺国 ②従来の九州説の候補地が10個あげられているが最後の博多説は古田以外にない ③古田説の論理の無断盗用 a発想の出発点たる邪馬壹国という中心国名 b論理遂行上の4つの支柱 c博多という帰着点 論理の借用の例①2倍年暦、②韓国内陸は魏使のデモンストレーション

3)長編推理小説というのが親鸞研究の若い学者の盗用経験を記す。見え透いた盗作をしながら平然と自分の発想として語る背徳の学者。はたまた辛辣な鋭い作家か魏志倭人伝に1字の修正も施さず科学的な論理でこの難問を解明した前人は皆無である。私(高木彬光)はこの厳正な方法で永遠の謎に挑戦した。

4)高木説との差異 ①黄道修正説 真東から23度27分北にずれている(野津清説一邪馬台国物語) これは高木がミス認めて取り消した。サンケイ新聞昭和49年2月25日自分が頂いたアイデアを検証もせずに誇示することの誤り

5)宗像上陸説 松浦(末盧)には方角指定がないという理由で採用した。これは壱岐対馬の民は南北に市籠ると方向明示しているのを見落としている。海北道中は証拠になるのか。

6)地名比定の無視 古田の地名比定を先にしないという方法の純化の形をとっているが一大国=壱岐の場合の地名の類縁性は無視できない。実地の道理に反している。

7)季節は夏という理由に草木茂盛をあげているが夏到来説は久保が昭和45年丸の内出版でだしている。郡使の常に駐る所なり。すなわち常態になっている。第1回は夏の風物叙事

8)余里の見積もりを15%にして12000余里を出している(島半周読みでなく)が7000余里の場合は1.7%、もし15%なら8000里をオーバーする。これを7000余里とは書かない。

次回日程 17-10-6(金) 15時から18時 601号室

10-27(金) 16時から18時 601号室

11-6(月) 15時から18時 601号室